6 月 12 日のメッセージ

聖書：ローマの信徒への手紙　8：　12 – 17

「アッバ、父よ」

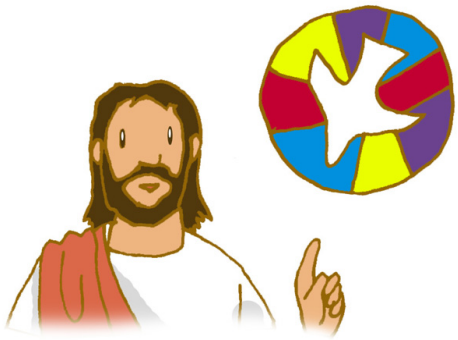
ペンテコステは弟子たちに聖霊が降ったことを記念する日です。聖霊に満たされた弟子たちはあらゆる国々の言葉で喜びの知らせを語ったといいます(「……彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っている……」使徒言行録 2:11)。その霊が私たちをも満たしているならば、私たちも同様に色々な言葉を操ることができるのでは、と期待しますが、残炎ながら現実はとても厳しい。

しかし、聖書に登場する霊はこの場面だけではありません。そもそも、私たちが命あるものとして生きるようになったのは、神の霊が私たちに吹き入れられたからです(「主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」創世記 2:7「息」＝「霊」)。

与えられた命を存分に生かして生きる道を示してくださるのもまた神の霊です。出エジプト記は工芸の力を与えるのもまた神の霊だと伝えています(「……ウリの子ベツァルエルを名指しで呼び、彼に神の霊を満たし、どのような工芸にも知恵と英知と知識をもたせ、……」出エジプト記 31:2-5)。また、他者の痛みを共に担うことができるのも、神の霊の助けあってこそです(「主はモーセに言われた。『……民の長老およびその役人として認めうる者を七十人集め、……あなたに授けてある霊の一部を取って、彼らに授ける。そうすれば、彼らは民の重荷をあなたと共に負うことができるようになり、あなたひとりで負うことはなくなる。』」民数記 11:16-17)。民を導く力を与えることもあります(「……主はイスラエルの人々のために一人の救助者を立て、彼らを救われた。……主の霊が彼の上に臨み、彼は士師としてイスラエルを裁いた。……」士師記 3:9-10)。神の言葉を取り次ぐこともできます(「主の霊があなたに激しく降り、あなたも彼らと共に預言する状態になり、……」サムエル記上 10:6)。人間のあらゆる力は全て神の霊の助けの中にあると聖書は私たちに教えているのです。

そして、能力ばかりではありません。霊はあなたが大切な一人として存在していることを伝えるために、弟子たちに、そして私たちに注がれるのです。イエスに聖霊が降った時、「『あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者』という声が、天から聞こえ」(マルコによる福音書 1:11)ました。神は私たち一人ひとりに光を注ぎ、喜びを種蒔いてくださる方です(「神に従う人のためには光を／心のまっすぐな人のためには喜びを／種蒔いてくださる。」詩編 97:11)。その神が、「あなたは私の大切な子どもの一人なのだ」と優しく語りかけてくださるのです。遠くにいて近寄りがたい存在としてではなく、まるで本当の親のように。

だから、イエスばかりでなく私たちも近しく「アッバ、父よ」と神に語りかけることができます(「あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、『アッバ、父よ』と呼ぶのです。」ローマの信徒への手紙 8:15)。思いを、願いを何でも親しく伝えることができるし、そして、神はそれに応えようとしてくださいます(「……あなたがたがわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。」ヨハネによる福音書 16:23)。



「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」(申命記 6:5)

私たちはいつも神の守りと助けの中にあります。安心して、これからも神と共に歩んで参りましょう。